

中村3兄弟 荒波越えた原点

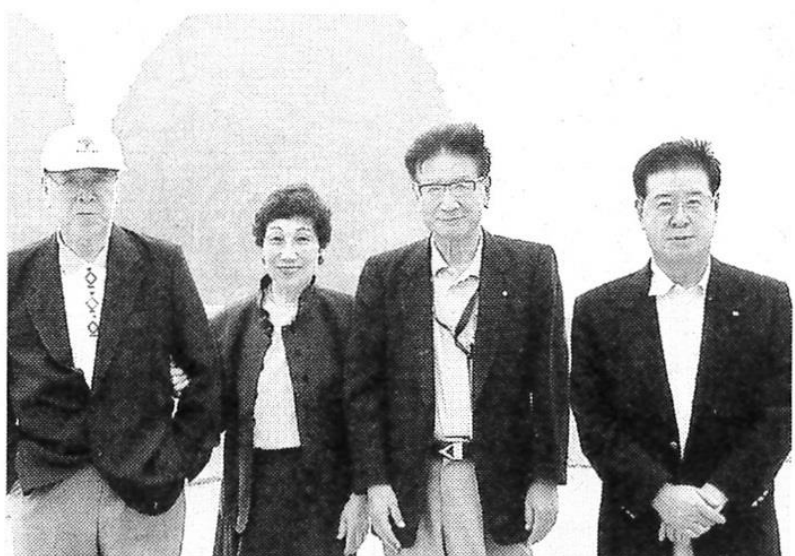
朝雲流れて 金色に照り

戸田中央医科グループ創設者
中村隆俊の半生

哲夫、隆俊、秀夫の中に3本の巨岩がまるで村3兄弟は、北海道瀬棚杉の巨木のように突き出町の自然の中でのびのびと育っている。その三本杉岩を育った。あるとき、いつ指さしながら、末吉は「毛ものように3人で兄弟げ利元就の三本の矢」の逸んかをしていたときの話を子どもたちに語らせと。突然、父末吉が「3人たのだった。」

とも、ちよつと来い」と 隆俊が代表して「う話強い口調で言った。海辺した。「毛利元就が病氣までの道を、父親の後ろの時に3人の息子を枕元を着いて行った。3人で、に呼び寄せた。長男が毛何だろつと顔を見合わせ 利隆元、次男が吉川元春ながら、不思議な期待と 三男が小早川隆景。元就不安な思いとが交錯しながらの道のりだった。し、折ってみると言つ。

そこに海辺の風景が現すると簡単に折れてしまれた。よく見ていた風景う。次に2本の矢を渡す。だったが、その日は、同じように折ってみるとつもと違う特別な風景に言つと、ちよつと手間取見えた。地元では「三本るが、やはり折れてしま杉岩」といわれ、海のなう。そして次に3本の矢



三本杉岩を背景に(左から)兄哲夫氏、哲夫夫人の雅子さん、隆俊氏、弟秀夫氏

父の前で三本杉岩の誓い

【第2話】

を渡す。元春も隆景も試すが、しなるだけで折れない。それを見て、元就は、「1本の矢は簡単に折れるが3本の矢は束ねると誰にも折ることはできない」と言い、3兄弟が力を合わせれば戦国の世を生き抜いていける、と息子たちに諭したと。これを受けて末吉は、海に浮かぶ三本杉岩を指さし、どんな荒波が打ち寄せてきても三つの岩が一緒なら崩れない、乗り越えられる、と諭した。さらに、これから何があつても3人が力を合わせて団結してやっつけてゆきます、と誓えと3兄弟に迫った。

「私たちはどんな困難に出合おつとも3人協力して立ち向かっていきます」。哲夫、隆俊、秀夫の3兄弟は、三本杉岩に真剣に誓つたのだった。

その時以来、勉強もアルバイトも遊びも仕事も、すべてのことに3人が力を合わせて励んできた。この三本杉岩の教え、誓いがあつたればこそ、現在の戸田中央医科グループがあり、中央医科グループ(板橋中央医科、戸田中央医科、上尾中央医科)の3医療グループの連合体で、規模は日本最大級がある。3人が力を合わせて生きていくことを誓わせた父に、隆俊は感謝するばかりである。

(敬称略)
(毎週火曜掲載)